

スパイ浸透 矮小化へ走る

ゾルゲ事件文書 各省が修正要求

△司法省「閣議第一枚六行目(略)ヲ削除セラレタシ」
 △第二枚目ノ五ヲ削除セラレタシ

日本政府を震撼させた国際スパイ事件「ゾルゲ事件」は、1942(昭和17)年5月16日に報道発表された。今回見つかった太田耐造関係文書のうち、同14日付の「外務省非公式意見」では、同省が内務省の報道発表草案(「国際諜報団事件に関する司法当局談」)に細かな意見をつけている。草案は随時更新され、それぞれ「厳秘」「極秘」の印が押されている。



ゾルゲと共に逮捕された元朝日新聞記者、尾崎秀実は近衛内閣の囑託も務めた

タイプまたは手書きで修正を頼ね、文章を消したり書き足したりした推察の形跡が生

々しい。細心の注意を払ったことがうかがえる。

ゾルゲは、近衛文相首相のブレーンで中国通として知られていた尾崎秀実ら日本人の協力者を得て、政権中枢にまで伸びるスパイ網を構築し、極めて重要な情報をモスクワに送り続けた。たとえば41年、ドイツがソ連に攻め込む準備をしていることを指摘。スターリンは無視したが同年6



推察や手書きの跡が生々しいゾルゲ事件の発表草案。極秘の印も見える＝東京都千代田区の国立国会図書館で、根岸基弘撮影

月ドイツはソ連に侵攻した。またドイツの同盟国だった日本政府では北進してソ連を攻める案と、南方に進出する案があったが、結局後者を選んだ。ゾルゲは日本が北進しないとの情報をお使館筋や尾崎から得てモスクワに送っていた。日本の北進がないこと

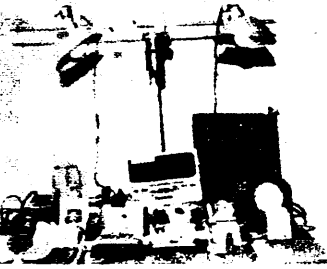
を知ったソ連は、極東の兵力をドイツとの西部戦線に回すことができた。

重要な情報を盗まれた外務省は、その大きな失点を隠すためか、内務省の草案をみて削除すべき部分を伝えていた。「本諜報団の暗躍による秘密情報漏洩を想像すれば愕然とする」ゾルゲ、尾崎は諜報活動にとどまらず、我が国の政策を左翼に有利に策動していたなどと書及した部分だ。

内務省は当該箇所を削除した。また「未曾有の戦慄すべき……」の検査「を削り、△政治枢要部等に接近▽を△政界上層部等に接近▽と修正した跡もみられた。関係各省が責任回避と自己保身のため、事件を矮小化する姿が浮かび上がる。ゾルゲ事件研究に詳しい太田尚樹・東海大名義教授は「時局の重要性にかんがみ、被害の重大性を世間から隠蔽する意図が見える。また、一層の左翼思想への取り締まり強化の動きも読み取れる」と指摘する。

また太田耐造関係文書には、同事件以外にも「次資料が含まれている。ゾルゲ事件」(平凡社新書)の書庫がある加藤哲郎、「橋大名義教授は、若い研究者たちによる、新時代の研究の宝庫だ。共同で解説すべき第一級の資料」と話している。【棚部秀行】

- ゾルゲ事件を巡る年表
- 1930年 ソルゲが中国・上海で朝日新聞記者・尾崎秀実と出会う
 - 33年9月 ソルゲ、特派員として東京に潜入
 - 34年5月 日本で尾崎と再会
 - 37年7月 日中戦争開戦
 - 38年7月 尾崎、朝日新聞社を退社し近衛文相内閣囑託に
 - 40年9月 日独伊三国同盟
 - 41年6月 独ソ開戦
 - 41年10月 ソルゲ諜報団を一斉逮捕
 - 12月 太平洋戦争開戦
 - 42年5月 ソルゲ団の逮捕を報道発表
 - 44年11月 ソルゲと尾崎の死刑執行
 - 45年8月 敗戦



ゾルゲスパイ事件で使用された写真機など